

「ヒューマンエラーの心理学」 ～ 医療・交通・原子力事故はなぜ起こるのか ～

放送大学客員教授 大山 正、麗澤大学教授 丸山 康則、麗澤大学出版会、175 頁

ISBN4-89205-436-4 (定価 2,200 円 + 税) 2001 年 2 月 3 日 発行



〔目次〕

- 序 ヒューマンエラーと心理学 [大山 正]
- 1 医療事故 組織安全学の創設
[山内隆久]
 - 2 核燃料臨界事故 社会心理学的考察
[岡本浩一]
 - 3 交通事故 心理学から見た安全対策
[丸山康則]
 - 4 自己モニタリングとエラー 認知心理学の立場より
[海保博之]
 - 5 自然とエラー 性格心理学の立場より
[安藤寿康]
 - 6 ヒューマンエラーの原因と予防 組織心理学の立場より
[正田 亘]
 - 7 外界と内界とエラー 臨床心理学の立場より
[東山紘久]
- あとがき [丸山康則]

本書は、医療、交通、原子力の各分野における事故原因が、人間のエラーによるものとの視点から、これらのさまざまな場面で起こっている人間のエラーに起因する事故に対して「心理学」という科学がどのように応えてきたのか。また、「心理学」が、これからどう対処していこうとしているのかが、8人の執筆者により、わかりやすく書かれている。

本書の主要な論点は、「人間はエラーをする生き物である」「事故調査の大切さ、事故から学ぶ大切さ」「機械システム、情報システムとの取り組みを人間の立場に立って進める」「組織をいきいきした雰囲気満たすこと」「自分から進んで安全行動すること」「国や政治にも、行うべき安全対策がある」「より広い視点に立つ」の7つである。

特に、「自分から進んで安全行動すること」の記述では、『自分の頭の働きと行動を自分で知って調整する』という自己モニタリングの重要性を説き、「仕事の目標をわかりやすくし、仕事そのものに対する情報だけでなく、仕事のやり方や、仕事の位置づけなどの情報を提供」することを薦めている。また、「安全は自分で守るもの」「心身の状況を良好に保つ」という基本からの生活設計が重要であることを指摘している。本書を読むと、人間についての深い理解が必要であることがわかる。